



子ども大学学生新聞

第27号
子ども大学
かわごえ新聞部

世界平和のあり方を考えよう

池上彰先生 テロの背景や憲法を授業



テレビで有名な池上彰・東京工業大学教授の授業「憲法と私たちの暮らし」が十一月二十一日、川越南文化会館でありました。出席者は四年生五一人、五年生五一人、六年生二人の計一二人。保護者はいつもより多く一八六人でした。一時間目は、最近パリで起こったテロの話がありました。テロを起したのはイスラム過激派といわれる人たちです。イスラム教は世界に約十六億人の信者がいる、二番目に多い宗教で、いずれ一番

のキリスト教をぬくといわれています。イスラム教が信じるアッラーはアラビア語で神様で、キリスト教やユダヤ教と同じ神様だそうです。フランスは移民大国で、今回のテロもフランスに移民としてきた人が起こしました。この人たちは貧しく、教育も受けられず、仕事もなく、テロリストになっ

てしまいました。テロをなくすには、テロリストになろうとする人たちが未然にふせぐことが大切だということと、そのためには貧しくても教育を受けられるようにしなくてはならない、と池上先生は話してくださいました。(佐野太一記者|高階小4年)

憲法には三大柱がある
二時間目は「憲法と私たちの暮らし」というテーマで、憲法の話をお聞きしました。さいしよに、「憲法とは、なにか」という質問がありました。学生からは、「国の決まり」や「ほりつより上の決まり」などの答えがでました。憲法とは、国民ではなく、けんりよく者が守るルールだと、教えて下さいました。

憲法には三大柱があります。それは平和主義と基本的人権のそん重、そして国民主権の三つです。

憲法は、一〇三の条文からできています。憲法上では、国民が一番えらいとなっています。自分が一番えらいと全員が思っていると、争い事が起こるので、法律を作っているのです。

国民が国を支えるために、三つの義務があると教えて下さいました。一つ目は教育を受けさせる義務、二つ目は働くこと、そして三つ目は税金をおさめる義務です。

いま問題になっている集団的自衛権についても話があり、最後に世界の平和のためにどんな貢献をすべきか、みんな考えてほしいと言われました。(吉岡柾大記者|上尾東小4年)

☆池上先生にインタビュー

Q なぜテロや憲法の話を今日のテーマにしたのですか。

A テロはこの前フランスで起こって、新聞やテレビでニュースがあり、みんなに、なぜテロが起きるのかを教えたかったからです。憲法の話は子ども大学からの要望です。

Q テロは何日か前に起こったことなので、授業の内容を考えるのが大変ではなかったですか。

A そんなことはありません。前からイスラム教のことを書いた本や雑誌を読んでいた、イスラム教の考えをよく知っていました。

Q 子ども大学で授業することをどう思いますか。

A 子ども大学という大学で小学生が学

ぶことはすばらしい。子どもが世の中のことを知らなくてもいいということはないから、私もみなさんに教えることができうれしいです。

Q 子どもたちの夢は何でしたか。

A 新聞記者になりたかった。

Q なぜですか。

A いろいろなことを知りたかったから。(土田莉子記者|山田小6年、小磯彪琉記者|川越一小6年)

☆学生の授業感想

◇霞ヶ関東小5年・三上泰毅君「日本をよくするために憲法が大切だということを知った」

◇高階西小4年・堀颯斗君「イスラム国について分かりやすく教えてもらえてよかったです」(熱田悠記者|大塚小5年)

◇新宿小5年・小宮真瑠さん「憲法やイスラム教などのことがよくわかって、おもしろかったです」(増田夢美記者|名細小6年)

◇高階小4年・寺崎蒼汰君

Q きょうの授業はどうでしたか。

A 少しむづかしかった。

Q どこがむづかしかったですか。

A 一時間目の話です。

(奈村晴冬記者|高階小4年)

◇月越小5年・松下莉久君

Q どっちの授業が楽しかったですか。

A 二時間目の憲法の授業です。

Q 今日の話聞いてどう思いましたか。

A 難しかったけれど勉強になってよかったです。

(篠崎仙太郎記者|中央小5年)

☆記者の授業感想

◇関根英瑠麻記者「古谷小5年」池上先生の授業を聞いて、しよげきをうけたことは、イスラムかけき派の人たちはテロを起しているのに、それで天国に行けると教えられていることです。もう一つは、イスラムかけき派の子どもたちも大きくなったら武器をとって戦うように言われていることです。イスラムかけき派の人たちは、命を軽く考えているのではないかと思いました。ぼくはイスラムかけき派のテロを解決する方法が、今は分かりませんが、テロはなくなっほしいです」

◇品川遥紀記者「高階西小6年」ムハンマドとはどういう存在なんかわかっていませんでしたが、それを知って理解を深めることができました」

◇中島瑞木記者「名細小6年」イスラム教の人たちが、全て悪い考えを持った人々ではないということがわかりました。また、憲法について興味を持つ良いきっかけとなりました」

◇堀越萌加記者「上戸小4年」パリをこうげきしたのは、ほとんどフランス人だったことや、かけき派は原理主義の人たちの少数派ということにびっくりしました。また、日本国憲法の三つの柱と三つの義務について、くわしくわかってよかったです」

◇篠崎仙太郎記者「中央小5年」テロの授業が一番印象に残りました」

◇増田夢実記者「名細小6年」とても分かりやすい授業で、憲法やイスラム教、キリスト教のことに興味が出てきました」



ミニダイコンを育てる

農業体験 命の大切さを学ぶ

農業体験授業が川越総合高校の農場で三回にわたってありました。参加者は二〇人。指導したのは高校生のお兄さんお姉さん八人。

一回目は九月五日、ミニダイコンの種をまきました。

二回目は九月九日、間引きとナスを収穫し、三日目の十月三十一日にミニダイコンを収穫しました。

指導した高校二年の須賀瑛絵（すが・あきえ）さんは「栽培のコツは、水を上げすぎない、雑草抜きをさぼらな



い、それから楽しみながら育てることで」と言っていました。収穫のあと、農場の倉庫で農場長・田中忠明先生手づくりのトン汁を「ちそう」になり、高校生が野菜についての紙芝居を見せてくれました。「ダイコン、ニンジン、サツマイモ、キャベツなど食物せんの多い野菜は腸のはたらきを助けてくれます」などの説明がありました。おみやげに、抜いたミニダイコンを五本ずつもらいました。

☆甲田先生にインタビュー

Q どうしてダイコンを選んだのですか。
A 栽培の仕方が今回の授業に一番合っていたからです。ダイコンは秋から冬にかけて育ちやすいので。

Q なぜ農業体験授業をしようと思ったのですか。
A 小学生の皆さんに「命」の大切さとか、食べ物のありがたみ、野菜を育てる仕組みを知ってほしいからです。

☆記者の授業感想

「野菜を作るのに、こんなに手間暇かけて育てているんだなと思いました。二日目に収穫したナスも、とってもおいしかったです」

(以上、増田夢実記者「名細小6年」)

特別授業

少林寺拳法の技を学ぶ

少林寺拳法の特別授業が十一月七日(土)、川越工業高校クローバー館の武道場であり、子ども三二人、大人二五人が参加しました。指導したのは金剛禪

本山少林寺 川越道院の矢島隆禪・道院長。

一時間目は、内うけ、外うけなどの基本をやりました。ようちえんの子から大人まで、とてもたのしそうにやっています。矢島先生は「一八歳のときから少林寺拳法を始めたそうです」。

(堤友花記者「大塚小6年」)
参加した広谷小5年の小林乙葉さんは「少林寺拳法にはたくさんの方の技があって、すごいと思いました。変な人が来たときに、今日習った技を使いたいと思いました」

大塚小4年の平山直人君は「転ばせる技がむずかしかったと言っていました」。

親子セミナー

「共に生きる」大切さ

糸原住職が宗教を語る

蓮馨寺の糸原恒久住職による親子セミナー「二一世紀における宗教の意味」が十二月十九日、蓮馨寺講堂でありました。参加者は親二〇人、子ども四人。

糸原住職は「仏教とは宇宙の大原則にのっとって生きる教えです」。宇宙の大原則とは「人間は自然の中で生かされていること」であり、「お互いに助け合いながら、よりよく生きること」。この「共生」の心があれば人間は「対立」もせず、平和に生きられる。そして「真善美を求めて生きることが大事」と語られました。とてもよい話に参加者は感動していました。(矢倉久泰)